

# 漁海況情報第8報 (2014年11月13日発行)

宮城県水産技術総合センター

連絡先：0225-24-0159

※本報は「<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/mtsc/>」でも公開中です。

## 1. 海況

**本県の沿岸から沖合海域の水温は表面、100m層とも平年より低め、特に142° 30' E付近は親潮系冷水の波及で平年より2~6℃低くなっています。**

宮城県沿岸から沖合海域の表面水温は、13~17℃台となっており、概ね平年より低めとなっています。100m深水温は4~16℃台となっており、特に142° 30' E付近に4~6℃台の親潮系冷水が波及し平年より2~6℃も低めとなっています [P1.水温水平分布図] [P1.水温平年偏差図]。

水温鉛直断面図をみると、気仙沼沖合ライン(38° 50' N)、雄勝沖合ライン(38° 30' N)、亶理沖合ライン(38° N)の概ね200m付近まで成層しています [P2.水温鉛直断面図]。

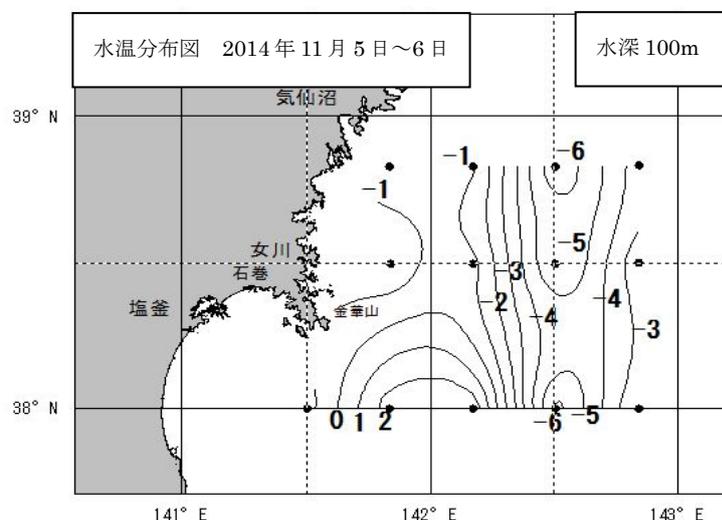
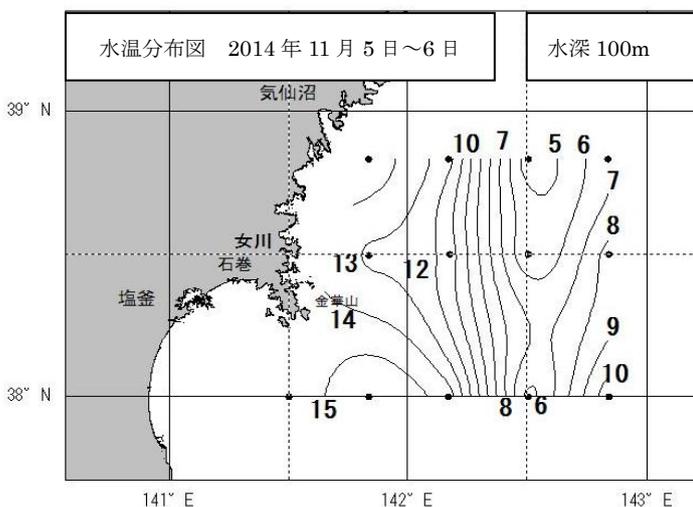
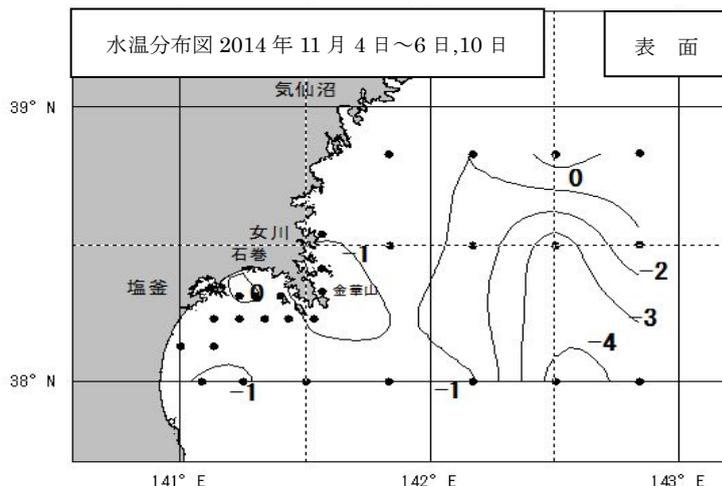
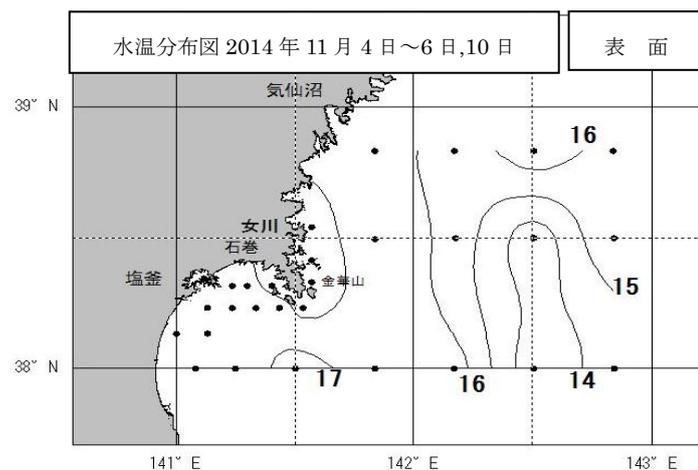
(一社) 漁業情報サービスセンター配信の東北海域漁海況情報(表面水温)によると、親潮第一分枝が三陸沿岸を岸寄りに南下、15℃台先端は相馬沖、親潮第二分枝も146~148° Eを南下、15℃台先端は志津川沖にあるのがわかります。[P2.東北海域の海況図：(一社) 漁業情報サービスセンター]。

11月上旬の定地水温は15~16℃台となっています。平年値との比較では、気仙沼(杉ノ下)、江島、田代島が「平年並み」、佐須浜が「やや低め」となっています [P2.定地海洋観測結果]。

海底直上水温については、前年同期並みです [P3.海底直上水温図]。

・水温水平分布図

・水温平年偏差図(現在水温と平年水温との差)

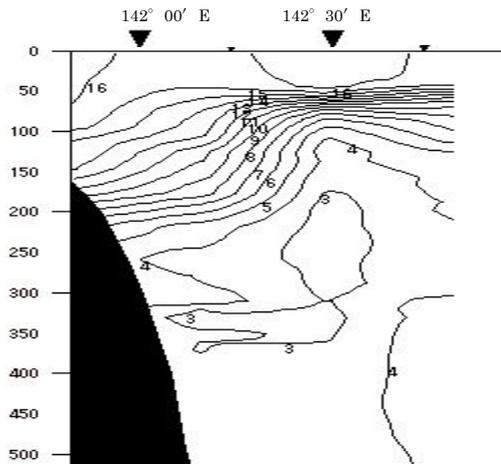


※海洋観測はみやしおと開洋が実施しました。

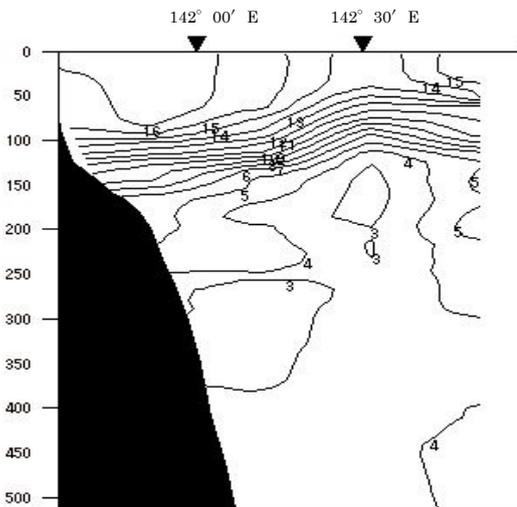
(補足情報)38° 50' N 142° 30' E の調査点でサンマを多数視認しました(11/5)。

・水温鉛直断面図

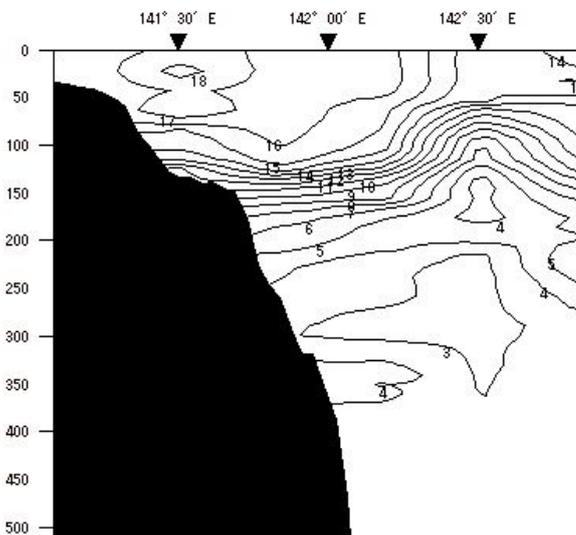
38° 50' N ライン(気仙沼沖合ライン)



38° 30' N ライン(雄勝沖合ライン)

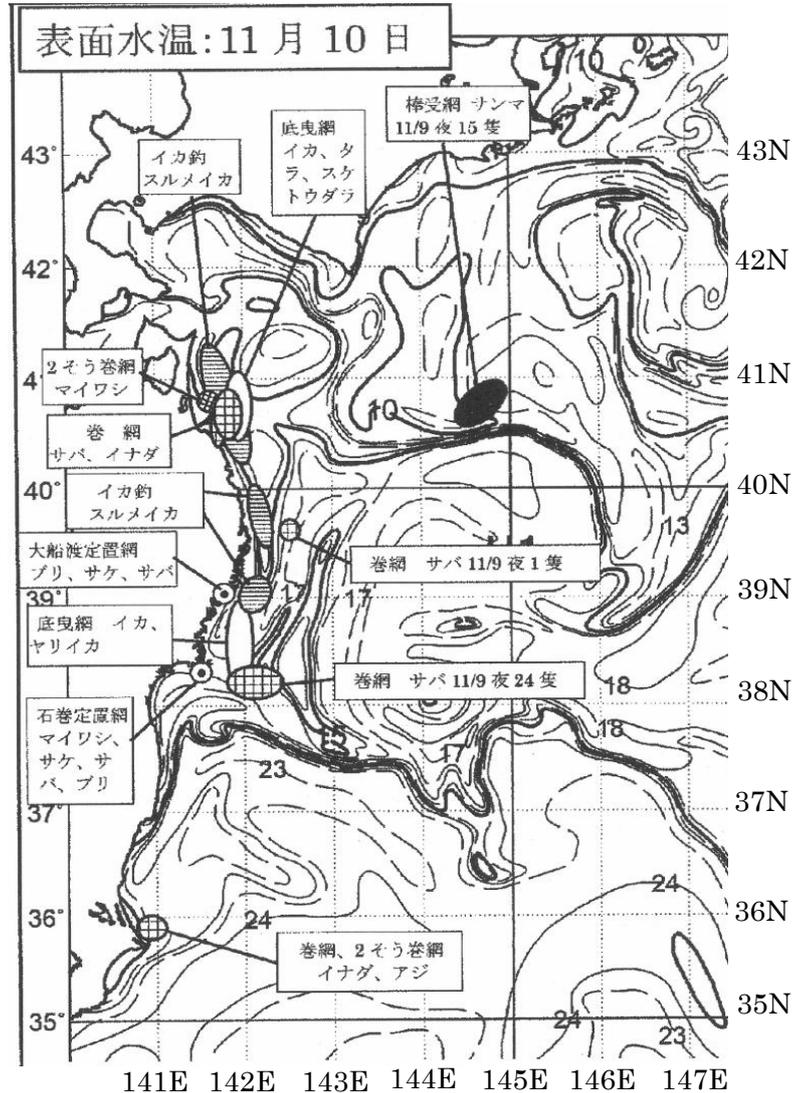


38° N ライン(亶理沖合ライン)



2014年11月10日の東北海域の海況(表面水温)

(一社) 漁業情報サービスセンター



特記事項 (一社) 漁業情報サービスセンター

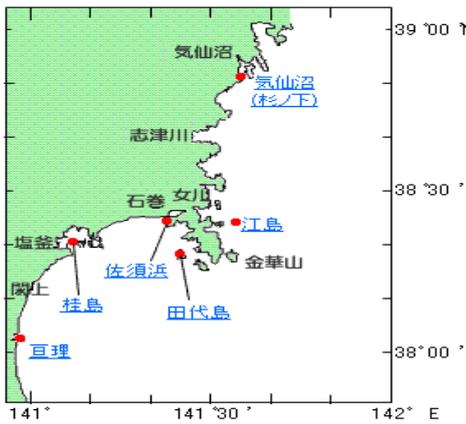
【海況】(11月10日表面水温)

- ・津軽暖流の張り出しが弱まって親潮第一分枝が三陸沿岸を岸寄りに南下、15°C台先端は相馬沖。
- ・第二分枝も146~148° Eを南下、15°C台先端は志津川沖。
- ・仙台湾~金華山の周辺海域(144° E以西)は混合水域、潮境を広範囲に形成。
- ・下北~金華山 15~16°C台、仙台湾~常磐 16~17°C台。

【漁況】(11月6~10日)

- ・1そう巻網: 11/9夜に仙台湾沖などで25隻がサバ1,222tを漁獲。
- ・三陸定置網: サケ、ブリ類、マイワシ、サバ主体。
- ・スルメイカ: 歌津沖で底曳網好漁。
- ・サンマ漁業: 八戸沖で主漁場継続。
- ・秋サケ: 10月末までの漁獲尾数は宮城が101%と減少傾向。

・定地海洋観測



観測点	11月上旬	平年差	前年差
気仙沼(杉ノ下)	15.4 °C	平年並み	-0.6 °C
江島	16.3 °C	平年並み	-0.5 °C
田代島	16.7 °C	平年並み	0.0 °C
佐須浜	15.0 °C	やや低め	-1.1 °C
桂島	15.1 °C	-	-0.7 °C
亶理	16.0 °C	-	-1.0 °C

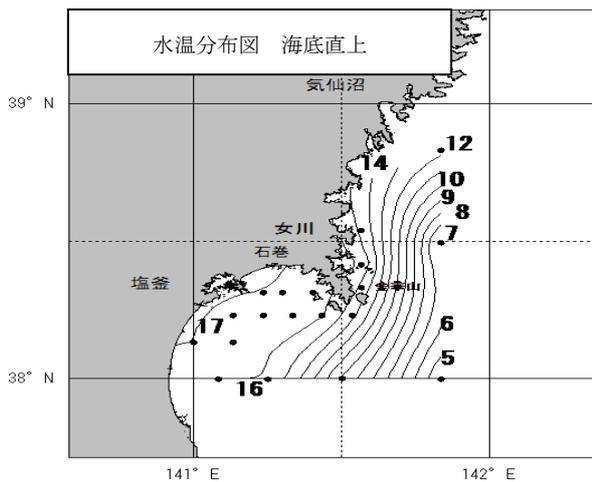
※田代島と佐須浜は自動観測装置による観測を中断しています。  
 ※平年差 (気仙沼)杉ノ下, 江島, 田代島 (30年) 佐須浜 (10年) 桂島 (平成24年2月から観測開始) 亶理 (平成24年10月から観測開始)

※最新の定地海洋観測結果は、

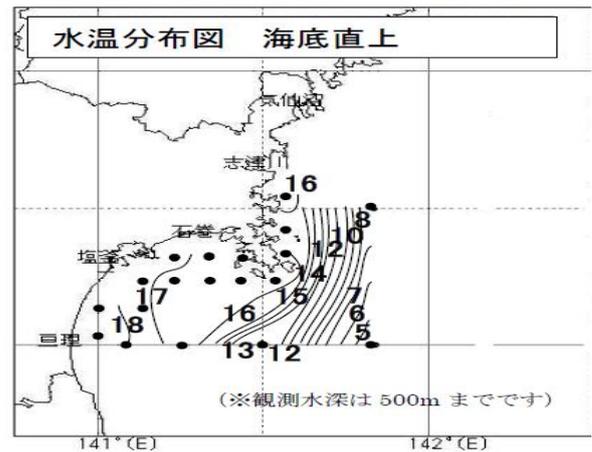
「<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/mtsc/kaiyou/2014011suion-index.html>」でも公開中です。

・海底直上水温図

・海底直上水温(2014年11月4日～6日,10日)

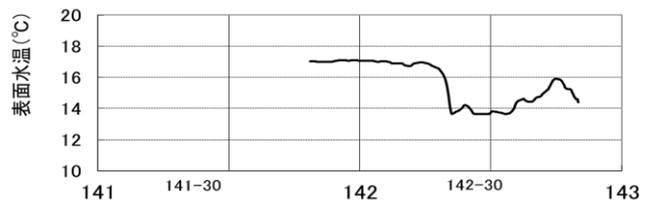
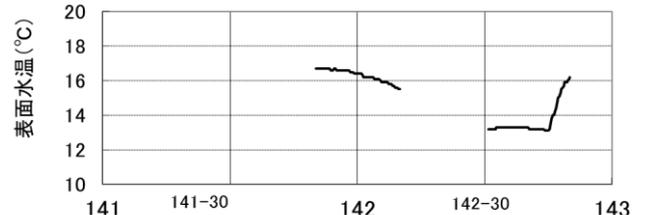
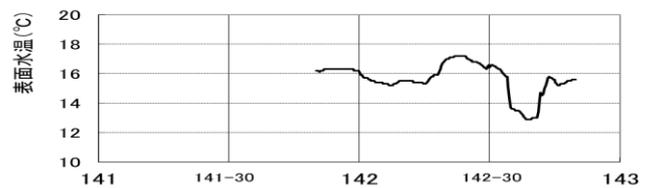
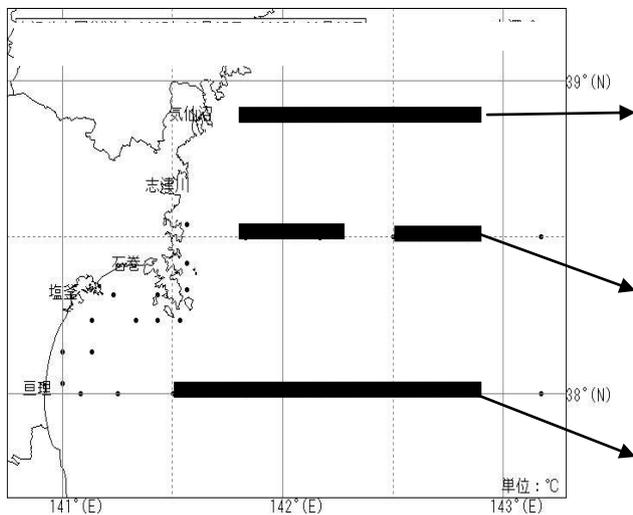


・海底直上水温(2013年11月5日～14日)



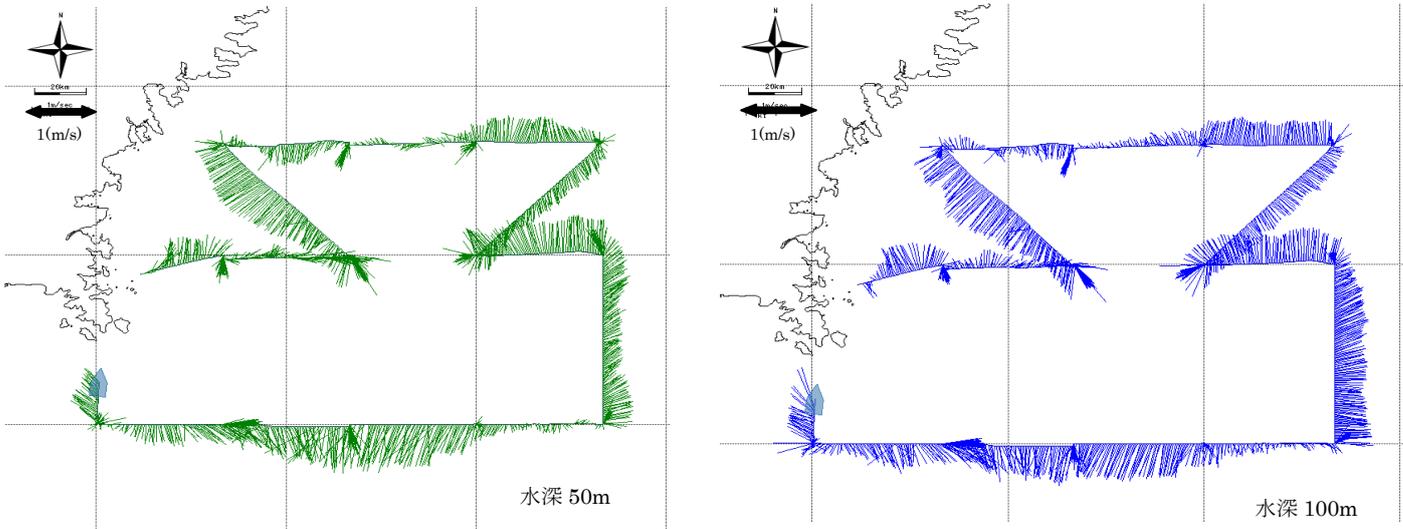
2. 表層水温情報

みやしおに搭載している「表層モニタリングシステム」で取得した航走表面水温は、下記の通りです。



### 3. 流向流速情報

みやしおに搭載している「超音波ドップラー流向流速計(ADCP)」で取得した 50m,100m 深の流向流速は、下記の通りです。亘理沖の流向は概ね南向きの流れが観測されました。



※潮汐成分は除去されておりません。流向は測線から伸びている方向に流れがあることを示しています。

### 4. 漁況

平成 26 年 10 月の水揚量を見ると、前年比でカツオ、さば類、マアジ、サワラ、マダラ、スケトウダラ、マアナゴを除いて水揚げが多くなっています。

主要魚種の県内10魚市場水揚量(集計期間:平成26年10月1日~10月31日)

	沖底	小底	旋網	サンマ棒受	竿釣	定置網	刺網 全漁法	イカ釣り	延縄	その他	総計	前年比
カツオ					1,579				0	1	1,580	40%
ビンナガ					1				151	0	153	219%
クロマグロ(メジ含む)					0	2			4	3	9	161%
メバチマグロ(ダルマ含む)									559	17	576	115%
マイワシ						7				62	69	906%
カタクチイワシ						155				1	156	240%
さば類	49	1	5,797			299	9			69	6,224	62%
サンマ				17,931						23	17,954	189%
ブリ	0	2	546			317	12			13	890	180%
マアジ	14	4				13	2			2	35	20%
サワラ	0	0				9	0		0	0	10	63%
スルメイカ	1,197	1				3	0	26		15	1,242	135%
ヤリイカ	68	14				5				0	87	518%
マダラ	517						12		1	204	734	71%
スケトウダラ	53						1			7	61	40%
キチジ	7									1	8	189%
キアンコウ	8	1				0	0			1	11	379%
マアナゴ	5	17				0	1			42	65	98%
ヒラメ	15	85				5	14			6	126	141%
マコガレイ	2	11				0	2			1	16	236%
マガレイ	44	50					0			0	94	11305%
サメガレイ	2								0	0	2	220%
パパガレイ	28	0					0		0	1	29	143%
シロサケ	86	5				876	679			1284	2,930	112%

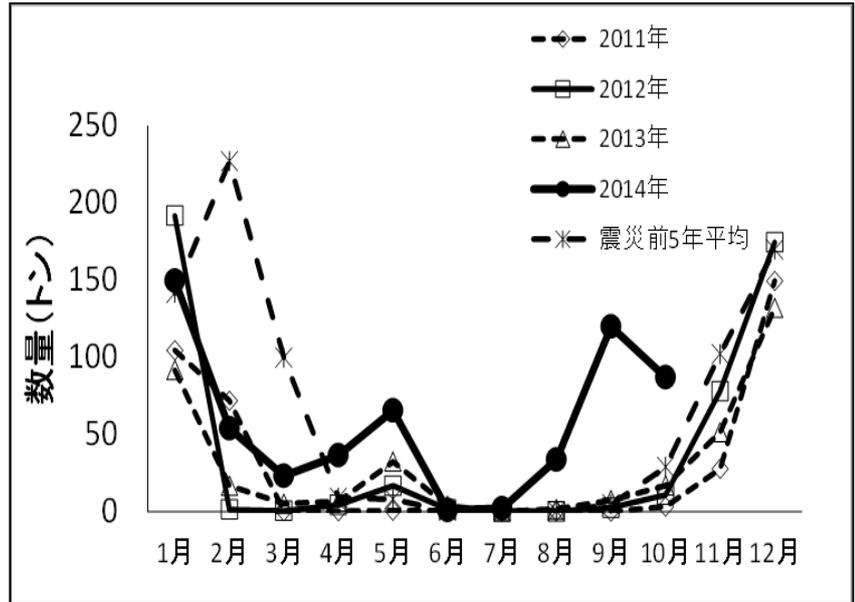
※宮城県総合水産行政情報システムによる集計(暫定集計値)  
※空欄は水揚げがないことを示し、0は1トン未満の水揚げを示す。

## ヤリイカの水揚げが好調

宮城県でのヤリイカ漁業は、通常11月頃から沖合底びき網でのヤリイカ狙い操業が始まり、2月～3月頃まで続きます。ところが、今年は8月に10cm前後の若齢ヤリイカが小型底びき網や定置網での漁獲が多くなり、9月から解禁となった沖合底びき網漁業での漁獲も多く、10月まで平年を上回る水揚げの推移となっています。また10月の「みやしお」での底びき調査でもヤリイカが例年になく多く採取され、資源量が高いことが伺えます。

今年の5月には網地島の定置網でヤリイカの卵嚢が多数産み付けられているのを確認しており、産卵間近の親ヤリイカも同時に見られました。また、その時期の水揚げ量も平年より多かったことから、今年のヤリイカの水揚げが好調であるのは、産卵量が多かったことが要因のひとつと考えられます。

本県のヤリイカは12月～翌年2月に水揚げのピークを迎えることから、今後の水揚げ増加が期待されます。



網地島定置網に付着したヤリイカの卵嚢  
2014年5月15日撮影

### 5. 大型クラゲ情報

(一社)漁業情報サービスセンターによると(<http://www.jafic.or.jp/kurage/index.html>)、「岩手県久慈で初確認。太平洋側での初確認情報です。この他、石川県、福井県のごく一部定置で1-2個体の確認がありました。九州～北海道～太平洋の広域を調査していますが、これ以外には確認情報はありません。(11月10日)」となっています。

### 6. 調査船運航計画

みやしお	
11月17日	イカナゴ夏眠期調査
12月1日～12月3日	沿岸定線調査

開洋	
11月14日	ヒラメ着底稚魚調査
11月17日～11月18日	刺し網調査
12月1日～12月3日	浅海定線調査